

第41回評価監視委員会の開催について

第41回 一般財団法人建設物価調査会評価監視委員会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

開催日及び場所	平成25年10月30日(水)15:00～17:00 建設物価調査会会議室	
出席委員 (五十音順)	木下誠也(愛媛大学防災情報研究センター 教授) 佐藤 淳(公認会計士) 千坂正志(千葉県代表監査委員) 寺川 祐一(医療用医薬品製造販売業公正取引協議会専務理事) 幕 亮二((株)三菱総合研究所 主任研究員)	
審議案件	案 件	備 考
	委員長選出	評価監視委員会規則に従い、委員の互選により千坂委員が委員長に選出された。また、委員長の指名により木下委員が委員長代理に選出された。
	(定期調査) コンクリート型枠用合板 東京地区	「建設物価」平成25年11月号174頁掲載価格について、調査結果記録票、調査結果集計表等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
	(定期調査) 鉄くず 東京地区	「建設物価」平成25年11月号772頁掲載価格について、調査結果記録票、調査結果集計表等に基づき、調査方法、調査プロセス等を説明。
委員からの主な意見・質問、それに対する調査会からの回答等	別紙のとおり	
委員会による指摘(不適切な点又は改善すべき点)	なし	

意見・質問	説明・回答
<p>1. 定期調査について コンクリート型枠用合板（東京地区）</p> <p>○ 為替の動きによってはリスクが生じるが、それは最終ユーザーが負担するのか、または流通の段階で吸収されるのか。</p> <p>○ 今の在庫品は高値で輸入したものなのか。</p> <p>○ 一次店から工業者に販売される価格を調査しているが、この流通経路が主流ということなのか。</p> <p>○ 輸入品が価格面での指標となっているというが、国産品について読者からの問い合わせはないのか。</p> <p>○ 調査先10社で60%のシェアとなっているが、60%で良いとする妥当性についてはどうか。</p> <p>○ 地域によっては二次店を経由しなければならないケースがあるのではないか。その場合には販売価格は高くなるのではないか。</p> <p>○ グラフを見ると1・3・5月は価格の変動が激しいものになっているが、このような時は特別に価格を決定するのが難しいのか。</p> <p>○ 10社の価格帯表では2社は高めで他の8社は同じ様にみえるが、会社によって取引の方法が違うのか。</p> <p>○ 掲載誌をみると首都圏の価格が安くて、地方に行くほど高くなるが、これは需要の差によるものなのか、それとも輸送費等のためなのか。</p> <p>○ マレーシアには日本の商社との合板の合弁企業が多いが、輸出先としては日本が最大なのか。</p> <p>○ 掲載誌には前月比と気配が記載されている資材と記載のない資材があるが、違いは何なのか。</p>	<p>○ 流通段階のなかで為替のリスクをどこが負担するかとなるとそれは交渉事で決まってくる。しかし、一番大きく影響を受けるのは輸入商社である。</p> <p>○ 春先から円安状況が続いていたことや消費税増税をにらんだ秋需期待から商社が契約量を増やしたこともあり、当時の高値の製品が在庫となっている。</p> <p>○ 当会の調査基準として一取引1000枚程度の大口取引を調査対象としている。この取引数量は一次店から直接工業者渡しの流通経路として一般的である。</p> <p>○ 読者から東京地区の状況について時々問い合わせがある。国産品の生産工場は東北地方に存在しているが、東京に搬入するためには運搬費が割高で輸入品とは価格面で太刀打ちできず、流通していないことを確認している。</p> <p>○ 60%というのは当会の推定値ではあるが、40～50%以上カバーしていれば市場での傾向は捉えることができると考えている。</p> <p>○ 大口取引を調査対象にしているので一次店での調査となる。全国の地区ごとに有力な一次店がある。</p> <p>○ 通常調査先は毎月固定されているが、今年に入って価格が急激に上がった時は今まで調査していない業者にもヒアリングを行うなど、より慎重に調査を実施している。</p> <p>○ この2社は木材の販売を中心とする会社で客先の違いや扱い品の違いによるものと思われるが、コンクリート型枠用合板の取扱量が少ないということではない。</p> <p>○ 首都圏は最大消費地であるため販売業者の数が多く、販売競争が激化し安めの傾向となっている。コンクリート型枠用合板は主にマレーシアから輸入されているが、全国の主要な港に荷揚げされているので輸送費による地域差は見られない。</p> <p>○ マレーシア産に関しては日本が最大の輸出先である。6～7割程度が日本向けとなっている。</p> <p>○ 主要資材については前月比と気配を記載するようにしている。</p>

意見・質問	説明・回答
<p>2. 定期調査について 鉄くず（東京地区）</p> <p>○ 鉄くずは問屋が買い取る時の価格を調査しているのか。</p> <p>○ 鉄くずにはH1とかH2とかいろいろな規格があるが、発生する鉄くずはこのような規格通りのものがあるのか。</p> <p>○ 問屋の切断等の処理が済んでからH1とかH2とかの規格になるのか。それならば問屋からメーカーに行くときの価格ではないのか。</p> <p>○ 鉄くず価格は建築工事の積算にどのような使い方をされるのか。</p> <p>○ いろいろな鉄くずが混在した状態で問屋に入ってくるが、それをある程度仕分けした後の価格なのか。</p> <p>○ 輸出の表では2009年の中国と2012年の韓国に伸びが見られますがどのような理由か。</p> <p>○ 調査対象業者として信頼度の高い8社が選定されているが、資料にある名簿と比較すると切断能力の数値が高いA・B業者が対象となっていない理由は。</p> <p>○ 資料をみると鉄くずの価格と異形棒鋼の価格の推移をみて整合が取れているとされているが、異なる製品との比較ですが評価できるのか。</p> <p>○ 資料に関東鉄源協同組合があるが、これは問屋の集まりなのか。</p> <p>○ この組合の落札価格が載っているが、これは組合が購入する場合の価格なのか。</p>	<p>○ 問屋が買い取る時の価格を調査している。</p> <p>○ 市中発生くずは建設解体工事等で発生する鉄くずであり、これは大きさや形状が一定でないため、規格通りのものは全体の一部ではない。</p> <p>○ 問屋の大半の受け入れが規格外であるが切断の加工処理をすることによりH1やH2となるため、規格外価格と切断費を調査している。また、切断の処理がいらぬ一部のものもH1やH2として調査している。</p> <p>○ 新築や改修では鉄筋や鉄骨の工場内加工で発生した鉄くずを有価物として直接工事費から控除し積算している。</p> <p>○ 仕分け費用は鉄くず価格に含まれない。仕分けする前の鉄くずを問屋が目検で判断してH1やH2等の規格に分類され、仕分け費が差し引かれて問屋の購入価格が決定される。</p> <p>○ 中国は2008年に北京オリンピックが開催されたが、その後も上海万博を控えて鉄鋼生産意欲が高かったことによるものとみている。2012年の韓国の伸びは米国くずよりも割安感のある日本くずへの引き合いが強まったことによるもの。</p> <p>○ 切断能力の数値が高いだけではなく継続的な調査を実施するために当会の調査に対して理解と協力が得られ信頼性の高い業者を調査先として固定している。</p> <p>○ 鉄くずだけが異形棒鋼の価格を変動させる要因ではないが大きな影響があり、電炉メーカーの鉄くず購入価格や異形棒鋼価格の動向を把握するために両者の比較を行っている。</p> <p>○ 組合員数は85社97事業所の問屋の組合である。</p> <p>○ 応札権をもった商社が組合から購入するときの価格である。この価格は、アジア市場への輸出価格の指標となっている。</p>
<p>3. 次回開催日について</p> <p>○ 次回評価監視委員会は、平成26年1月下旬に開催予定。</p>	